見中・磐田南高等学校
同窓会だより
第39号
発行日
平成29年10月10日
発行者
見中・磐田南高等学校同窓会
発行責任者：伊藤 英明
印刷
株式会社 大進堂
同窓会ホームページ
http://bannan-dousoukai.com

念願の浜松支部誕生

創立100周年に向けての大きな力

同窓会長 高15回
伊藤 英明

今年の夏は例年になく暑い日が続きましたが、会員の皆様には益々ご健勝にてお過ごしのことと拝察申し上げます。母校の生徒もこの猛暑の中、文武両道・質実剛健の伝統を引き継ぎ、各種大会において優秀な成績を収めたことは同窓生の誇りとするところです。

このような中、本年開催された第91回同窓会総会並びに懇親会は、担当年次である高校48回生の準備万端の運営により、盛会裏に終了できましたことに、まずもって御礼申し上げます。

浜松支部役員一同

1 同窓会浜松支部誕生

磐田南高校同窓会にとって本年の最大の朗報は浜松支部が設立されたことです。かって浜松には西遠支部が存在していましたが、ほとんど休止の状態でした。その後、合併した浜松市には、2000人を越える同窓生が居住していますので、支部再興は最大の懸案事項でありました。このような中、昨年5月、有志5人が集まり、浜松支部立ち上げの発起人会を持ち、今後の段取りを相談いたしました。

設立総会は、11月12日、大原学園において開催されました。約50名の同窓生出席のもと、浜松支部設立が全会一致で承認され、支部長に鈴木裕司さんが選出されました。

浜松支部の設立は、母校のある磐田支部を支える大きな力となるだけでなく、同窓会組織を一層強固なものにしてくれるものです。ここに、改めて、関係者のご尽力に心から感謝と敬意を申し上げ、浜松支部の益々の発展を心からご祈念申し上げる次第です。

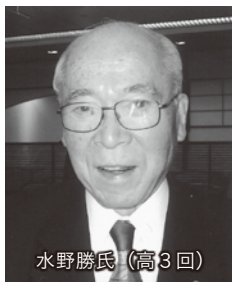
「水野勝文庫」
このプレートが目印です

2 母校・同窓会への熱き思いの水野勝様を悼む

関東支部の元副支部長水野勝様（高3回）が3月25日に84歳でお亡くなりになりました。旧豊田町出身の水野様は官僚として、又、退官後は実業家として日本を牽引した偉大な先輩です。高校時代には読書をことのほか親しんでいたことを寄稿文（同窓会だより第36号）で見つけました。この時の懐かしい思い出が、母校後輩にも是非読書を通して成長してほしいとの願いとなり、平成13年、図書購入のためにと多額な寄付をしていただきました。学校はこの篤志を重く受けとめ、図書室に「水野勝文庫」を創設、現在も引き続き運用しているところです。文庫には、福澤諭吉、西田幾太郎、田中正蔵、小泉信三他の日本の近代、現代の思想全集が全巻揃えられています。後輩の生徒諸君には、是非、当文庫を利用して思考を深め、多くのことを学んで欲しいと願うところです。

また、同窓会においては、お忙しい立場にありましても、支部役員をお引き受けいただき、組織強化と円滑な運営に大所高所からご指導・ご助言を賜りました。

ここに改めて、水野勝様の生前の同窓会及び母校に対する熱い思いと行動に心から感謝と敬意を申し上げ、謹んで哀悼の誠を捧げる次第です。


水野勝氏（高3回）

▶官僚として、実業家として華々しいキャリアを勤め上げ、母校の後輩にと、学校に多額の寄付をした水野勝氏（享年84歳）

3 創立100年に向けて準備スタート

来る5年後の2022年は母校が創立されてから100年を迎えます。

同窓会としては、本年から、創立100周年に向けての準備に入るため、補助職員を「はぐま会館」に配置し、態勢を整えたところです。今後、創立記念事業が母校の更なる発展と同窓会員の親睦融和を深化するものになるよう十分検討し、提案してまいる所存です。

全同窓会員の絶大なるご理解とご協力のもと、事業が推進できますよう重ねてお願い申し上げ、会長の挨拶といたします。

はぐまの窓から ～100周年に向けて～

羅馬（ローマ）は一日にして成らず

高27回 永田 淳

今年の4月から見中・磐田南高100周年事業準備補助職員として勤務することになりました、永田淳（高27回）です。この3月まで磐田南高校教諭として教鞭をとっていましたが、同窓会嘱託としてまたお世話になります。

さて4月からはぐま会館書架の書籍・資料の確認作業を始めました。書架には見中創立の経緯や初代校長尾崎楠馬先生はじめ小田原勇教頭の業績、水泳の牧野正蔵選手の1500m自由形世界新記録認定証、水泳部・陸上部ほか諸先輩の歴史的な資料が数多く保管されています。また見中・磐南OBの母校愛に溢れた記念誌、著書なども数多く並んでいます。これを機にこれらの資料を精査して、100周年記念事業に向けて準備を進めたいと考えております。今回はその一部を紹介します。なお、紹介文は平成26年関東支部総会高38回生による「尾崎楠馬先生没後60年企画展」に紹介された、津川悟氏（高35回）による解説を参考にさせて頂き、永田が一部加筆してここに掲載させて頂きます。

校舎本館・正門にて
尾崎校長（中央）と小田原教頭（左隣）
大正11年（1922）7月27日

12面で、はぐま会館書架の書籍を紹介しています。

第91回 同窓会総会開催!!

平成29年8月20日、磐田グランドホテルにおいて、来賓並びに多くの同窓生の参加をいただき、「第91回同窓会総会・懇親会」が、盛大に開催されました。

晩夏にノスタルジアの花開く!!

総会実行委員長
高48回 寺田利行

8月20日（日）に開催されました「第91回見付中学校・磐田南高等学校同窓会総会および懇親会」に、多数ご参加いただきましたこと、また開催にあたり関係者の皆様に多大なご協力を賜りましたこと、改めて心より御礼申し上げます。

さかのぼること約1年前、前回の懇親会において当番年次の命を受け、すべてはこの日のためにと、数多くの諸先輩方や後輩たちと出会い、様々な交流をしてきました。その中で、見中・磐南の伝統が脈々と今に受け継がれていることに驚き、改めて母校の偉大さを発見した、そんな1年だったなと思います。

今年も、ひとつ下の後輩たちと共に、初代校長である尾崎楠馬先生が眠る見性寺の墓前にて、「校訓の1つである質実剛健の精神を今後も受け継ぎ、母校が更なる発展を遂げていくため、総会が盛大に開催されるようお守りいただきたい」と心より祈念してまいりました。そして、総会後にも無事開催されたことの報告をいたしました。

さて、本年は「Nostalgia～思い出は新たな色に変わりだす～」を総会スローガンとし、高48回生一同、準備ならびに運営を行ってまいりました。これには、「今ここに集う同窓生たちが、過去を懐かしみながらも、今この場を起点として、未来永劫さらなる同窓会の発展を目指していこう」という思いを込めました。そんな私の思いを上回るほどの賑わいが、会場のあちらこちらから聞こえ、非常に感慨深いものとなりました。

今回、ご参加いただいたすべての方々にとって、心にノスタルジアの花が咲き誇り、新たな一歩が踏み出され、同窓会が人生のスパイスとなったのであれば、心から嬉しく思います。

そして、この1年間苦楽を共にした高48回生のみんなにも、改めて感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

総会の様子

600人の同窓生で埋め尽くされた懇親会場

受賞者 喜びの談

金

卒業70周年【中21回】
挨拶は佐野尚男さん

只今は、私共見中21回生20名に卒業70周年の記念金メダルを頂きまして、有難く厚くお礼申し上げます。私共が見中生になったのは、日米開戦の4ヵ月後の昭和17年4月で、3クラス165名が入学しました。

この年、全国の中学1年生から、陸軍の兵隊の使っていた戦闘帽で通学となりました。

3年生の昭和19年8月、学徒勤労動員令が下り、教室を離れ、工場で軍需物資の生産に働きました。終戦で一年後にやっと教室へ戻ることができました。

昭和19年度から中学は4年で卒業に変わり、私達もそのつもりでしたが、卒業直前に5年も復活となりました。同級生の約半数は4年生の3月に卒業しました。5年へ進んだ者も、5月にあった入学試験に合格した者は中途退学し進学しました。

平成8年に卒業50周年記念誌を作りました。健在者の大部分が投稿し、資料も多く掲載しました。図書館、はぐま会館にも送りましたので、機会あったらご覧いただければ幸です。

金賞受賞者

後列	前列
高橋練二	石川　毅
竹内勝治	市川　恒
武田多嘉雄	大石　勝
鶴見博治	加藤節夫
中村隆一	佐野尚男
平野豊策	新貝重哉
松下秀夫	鈴木欣三
村上輝久	鈴木雄二
森谷昌司	高塚武夫
山内久雄	鷹野　毅

※敬称略

銀

卒業60周年【高10回】
挨拶は鈴木亮一さん

この度は、私たち磐南10回生の卒業60年という節目の年を、多くの同窓の先輩と後輩の皆さま方に、祝っていただき、誠にありがとうございます。

残念ながら、この日を待てなくて逝ってしまった仲間や事情があって本日出席出来なかった者のことを思うと、ちょっと複雑な心境でもあります。

しかし、彼らの気持ちを察しながらも、今のこの時を、素直に喜びたいと思います。本当に有難うございました。

ここまで来たからには、先輩たちの後を追って、卒業70年の記念メダルをいただけるよう、頑張りたいと思います。

簡単ではありますが、お礼の言葉とさせていただきます。本日は、本当に有難うございました。

銀賞受賞者

銅

卒業50周年【高20回】
挨拶は堀内 豊さん

高校卒業50年を迎え感謝の気持ちがいっぱいです。ありがとうございます。

これまで我々20回卒としては、総会当番年次に当たった卒業20年、慰霊祭当番に当たった30年、同窓会活動助成金寄贈の40年、という節目の年ごとに学年同窓会を実施して全員の気持ちをまとめてまいりました。今年は学校への助成金を含め50年の節目に全員の感謝の気持ちを表しました。

半世紀にわたる長い年月には、それぞれ一言では言い尽くせぬ人生があったことと思いますが、少なくとも青雲の志に燃えていた当時の18歳の高校生が、まもなく古希を迎えるまぎれもない高齢者に変貌いたしました。手を取り合って卒業してから30名近い同級生が既に鬼籍に入っておりますが、多少身体のあちこちに言うところはあるにせよ、元気に同窓会総会に出席できる有難さに改めて感謝し、大恩ある母校へ恩返しが少しでも果たせたらこれ以上ない幸せと考えています。ありがとうございました。

銅賞受賞者

慰霊祭のご報告

慰霊祭実行委員長
高39回 柏木 健

私たち39回生は、昭和59年4月に憧れの磐田南高等学校の門をくぐりました。

在学中は校訓である「質実剛健」「真剣至誠」「文武両道」の実現を目指し、昭和62年3月に学舎をあとにしました。

在学時にバブル経済と言われる好景気が始まり、大学入試も共通一次試験からセンター試験へと変わる直前の受験となりました。その中、ある者は地元に残り、ある者は離れたりと、生活の舞台、活躍の舞台は本当に多岐にわたっています。

このたびの慰霊祭で同級生の消息を調べた結果、7名の仲間を失っていることが判明いたしました。亡き友の無念さ、また、残されたご遺族の悲しみを察するに、心痛に耐えません。

当日は、同級生7名と昨年の8月から本年7月までの1年間に亡くなられた同窓会会員62名と恩師7名の御霊に心からのお祈りを捧げさせていただきました。この磐田南高校の伝統を素晴しいと感じる時間をありがとうございました。

OB活動報告

「文武両道」熱く！
陸上部OB会総会盛大に

歴史のある陸上部OB会（高14回広岡征夫会長）が、今年も1月22日磐田グランドホテルに於いて74人もの多くが集い盛大に開催された。

今年の総会のメインは、高7回大庭勝良OB会顧問の『文武両道』を後世に」の熱い思いからの企画。陸上部OBで、童謡詩人として活躍した高13回故坪井安先輩が遺された童謡「ありがとう」を、広める運動をしている高14回橋本洋子さんの話と、そのグループの皆さんによる合唱披露であった。

参加した者皆、熱き思いが蘇り母校への感謝の念と親睦を深め合った。

編集委員　高16回　仲川勝彦

そのOB会で出会えた音曲「ありがとう」は、陸上部先輩の童謡作家、故・坪井安氏の作品で、聴く度にいつも涙が込み上げてきます。郷愁の念、心が洗われる思いがそうさせているのではないでしょうか。

もう一度生で聴けるよう、娘がリーダーをしているコーラスグループに働きかけ、心待ちにしている今日この頃です。

童謡「ありがとう」の詩には、磐田南高校の建学の精神が凝縮されている。坪井安さんについての話に聴き入る陸上部OB会員と、歌を披露した「ありがとう広め隊」の36人

先輩を手本に今が

高14回　岩﨑四郎

まさかこのような企画が！

若くして亡くなられた一級上の坪井安先輩の童謡詩人としての活躍を聞き、共に汗した苦しくも楽しかった陸上部の思い出に、感激でいっぱいになり涙しました。

坪井さんは、伊藤修二さんのヤマハ社長就任を祝って詩を贈ったり、東京から車でOB会に出席された折には、私を焼津まで、松村吉郎さんを静岡まで乗せてくれたり、がっちりした体格でいて、心は非常に優しく気遣いもある物静かな方でした。

私は、大先輩達の活躍と存在感に影響を受け、自らも奮い立って「とにかく俺も頑張るんだ」と、お手本にして、現在の自分があります。

今迄で一番忘れられない会でした。

OB会でのある出会い

高19回　竹下彰久

陸上部OB会で思わぬ出会いがありました。

私は大学時代から大阪府に在住しています。50年ぶりに恩師、先輩、後輩達にお会いし、懐かしい思いでいっぱいでした。高校時代、私の不注意でインターハイの総合優勝を紙一重で逃した苦い思い出があります。

袋井とベトナムの絆をつなぐ
～伊藤雅文さん（高26回）

名古屋第一赤十字病院の伊藤雅文副院長（高26回）が4月、ベトナムにおける造血幹細胞移植治療の人材育成に貢献したとして、同国保健省の「人民健康章」を受けた。白血病など正常な血液を造るのが困難な患者に血液の成分の元になる造血幹細胞を移植するもので、伊藤医師は2013年に首都ハノイに設立された拠点国立血液輸血センターの立ち上げにあたり、名古屋の病院でベトナムの専門医の研修を継続的に受け入れ、現地移植医療の水準アップに貢献、日本人の同僚や欧米の医師ら4人とともに受章したもの。

ベトナム独立運動の指導者ファン・ボイ・チャウを支援した医師浅羽佐喜太郎（1867～1910年）ゆかりの袋井市梅山のほど近くで生まれ育った伊藤医師は、同国ハイホン市で開かれた授章式の特別講演で、現地の若手ドクター約200人を前に、先人がつないだ絆を紹介。フランス支配下のベトナムで日本に若者を留学させる「東遊（ドンズー）運動」を主導したチャウを、浅羽が資金面で支援した経緯や、袋井市で今も2人の絆が語り継がれていることを伝えた。

袋井市梅山の常林寺には、チャウが浅羽のために建てた紀念碑（来年で建立100年）があり、浅羽ベトナム会（袋井市）では両国友好のシンボルにと活動している。

浅羽佐喜太郎によるファン・ボイ・チャウへの支援の経緯などをベトナムの医師らに紹介する伊藤雅文さん＝4月上旬、同国ハイホン市

支部総会に参加を

「浜松支部」の第1回総会、11月11日(土)に開催！

浜松地区では同窓会支部活動が永らく休眠状態でしたが、昨年11月12日、「浜松支部設立総会」が名古屋大原学園浜松校にて開催されました。当日は、同級生約50名が出席し「浜松支部」の立ち上げを決定、支部長に鈴木裕司氏（高19回）を選出しました。

浜松支部の第1回総会は、次の日程で開催されますので、浜松地区にお勤め・お住まいの皆様、お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

日時　平成29年11月11日(土)　11時30分～14時
会場　グランドホテル浜松（浜松市中区東伊場1－3－1）
会費　3千円
申込先　（株）遠州日石　☎053－454－7431　担当　蓮尾（9時～15時）

関東支部
支部長　加藤　亨（高23回）
連絡先　千葉県松戸市二十世紀が丘柿の木町105－12　090（4718）4807（津川典久副支部長）
総会日　平成29年11月11日（土）受付13時～、総会13時30分～16時30分
会場　デイ・ナイト大手町店
ひと言　今年は高41回が担当　皆集まらまいか！　学生の参加者は半額

静岡支部
支部長　鈴木　一雄（高24回）
連絡先　浜松市中区広沢2－27－20　090（1561）4067
総会日　平成29年11月15日（水）18時30分～
会場　ホテルセンチュリー静岡18Fスカイスイート
ひと言　県内中部地区に住まい・勤める同窓生の皆さん、是非ご参加を。

掛川・菊川支部
支部長　渥美　留夫（高12回）
連絡先　掛川市葛ヶ丘2－8－46　0537（24）0007
総会日　平成30年1月13日（土）15時～
会場　パレスホテル掛川
ひと言　多くの同窓生の皆様の参加を期待しています。

袋井支部
支部長　松本　貢（高16回）
連絡先　袋井市岡崎3928－3　0538（23）4006　090（7676）0227
総会日　平成30年度未定（6月頃決定予定）※平成29年度は7月に開催済
ひと言　各支部の総会の御盛会をお祈り申し上げます。

磐田支部
支部長　堀内　豊（高20回）
連絡先　磐田市匂坂中787　090（3559）1861
総会日　平成30年4月14日（土）18時30分～
会場　磐田グランドホテル
ひと言　皆様の参加をお待ちしています。

豊田支部
支部長　芥川　知孝（高20回）
連絡先　磐田市池田1288　0538（35）2564
総会日　平成30年2月11日（日）13時30分～
会場　磐田商工会豊田支所2F大会議室
ひと言　同窓生の旧交を暖める場、交流の場としてご参加ください。

北遠支部
支部長　生熊　克己（高17回）
連絡先　浜松市天竜区二俣町二俣957－1　053（922）0117
総会日　平成29年10月21日（土）
会場　栄林寺

東海支部
支部長　大橋　正隆（高8回）
連絡先　名古屋市東区白壁1－27　アーバンラフレ白壁2－301　052（972）7663
総会日　未定（検討中）
会場　未定
ひと言　東海支部の存続に御支援を賜りますようお願い申し上げます。

関西支部
支部長　青島　敏行（高11回）
連絡先　滋賀県大津市鳥居川町6－35－1018　077（533）6828
総会日　平成29年11月25日（土）
会場　会場内覧11時30分～、総会12時～　綿業会館（大阪）
ひと言　会場の建物は重要文化財であり、総会前に内覧をプログラムに入れる予定です。

医師として難攻不落の病と闘い30年

高28回 岡　慎一

■プロフィール■
国立国際医療研究センター
エイズ治療・研究開発センター長

磐南を卒業したのが1976年、医師になったのが1982年、東京大学医科学研究附属病院で内科医をしていた僕が、教授からこれからはエイズが大事な病気になるといわれエイズを専門にしたのが1987年でしたので、エイズという不治の病と闘い30年が経つことになります。

自分の医師としての人生を「起承転結」に例えるなら、まさに1987年が「起」に当たります。治療法などなく死亡率100％といわれたエイズ患者を診ることは、当時病院中猛反対の嵐でした。

その後、米国NIH（国立衛生研究所）と東大医科研という恵まれた場所で診療と研究に没頭していた1996年までが「承」の時期に当たります。この時期、世界中の科学者がエイズ研究に邁進していました。診療でも研究でも多くのことを吸収することができ、することすべてが新しく、連日午前様でも全く苦になることはありませんでした。

1996年、厚生省から、国立国際医療センター（当時）にエイズ治療・研究開発センターを立ち上げてほしいと依頼され、1997年に今のセンターを開設しました。それから現在までがまさに「転」に相当する時期で、自分自身の転機のみならず、エイズに対する新しい治療法もでき、一気に患者の予後が改善しました。

今では、治療を受けている患者の余命は普通の人とほぼ同じといえるまでになっています。すべての病気の中で、これほど劇的に治療が進歩した病気は他になく、世界の英知を集めた医科学研究の強さをまさに身近で体験できた幸運に感謝しています。

さて、我々高28回生は、還暦を迎えます。定年まであと5年。自分のエイズ研究を締めくくるのにふさわしい「結」の課題は、新規感染者をゼロにすることです。抗エイズ薬を感染リスクのある人が前もって飲むことで感染を防げることが証明されました。日本の医療保険制度で予防が認可されることは極めて難しいのですが、次の世代にエイズを残さないためにも、この予防法の日本への導入を最後の一仕事にしたいと考えている今日この頃です。

高校時代を振り返って

高31回 古川典代（旧姓：小山田）

■プロフィール■
神戸松蔭女子学院大学　文学部教授
外国語教育センター長
日本通訳翻訳学会理事

磐南を巣立って、もう38年になります。仕事・結婚・出産・育児をこなしながら、がむしゃらに駆け抜けてきた日々から、少しゆとりを取り戻せるようになった近年、磐南時代の同窓生たちの集まりがしばしばもたれるようになりました。世間的には「おばさん」と言っていい年頃の私たちですが、同級生の集まりの中では、すぐにティーンエイジャーに戻れるので不思議ですね。

様々な思い出のある中でも、特筆すべきは姉妹都市であるアメリカマウンテン・ビュー市へ交換学生として派遣されたことかと思います。交流開始の第一期生でした。そして、私にとっては人生初海外。思えばあのときから、視野が外に向けられたように思われます。

大学では中国語を専攻し、政府奨学金を得て中国上海に長期留学したり、夢だった航空会社の北京支店に勤務するなど、中国語のおかげで数々の経験をさせていただきました。

思うところあって、38歳から大学院に進学して「外国語教育学」を学び、現在は女子大で教鞭をとっております。娘のような学生たちに、かつての自身の姿を重ねながら、「真剣に望んで努力すれば、夢は必ずかなうよ！」とはっぱをかけている日々です。

日中関係はいい時もあれば、悪い時もあり、天職と思って続けてきた通訳の仕事も、時勢に翻弄されて需要が揺れています。現在は、現場の仕事をセーブして、後進の育成に力を入れておりますが、長年携わってきた中では貴重な体験をたくさんさせていただきました。まもなく天皇陛下になられる皇太子ご夫妻の通訳を担当したり、愛新覚羅溥傑氏のインタビューや人民大会堂での対談等々、偉人たちの謦咳に触れさせていただいたのも一生の宝物となっています。

「近くて遠い隣国中国」とは、これからもあらゆる面で協力・協調していかなくては日本はなりたちません。高校時代に培った国際性を活かし、今後も日中交流に微力ながらも尽くしていきたいと思っています。

静岡の素晴らしさをたっぷり発信

高59回 鈴木佑実

■プロフィール■
NHK静岡放送局に在籍

NHKのキャスターを務めて6年。現在、昼前の情報番組「ひる・しず」や、夕方のニュース番組「たっぷり静岡」のリポーター、土日のニュースなどを担当しています。子どもの頃は人前に出るのが苦手な性格でしたが、不思議と高校時代にはこの仕事を志していました。日本語を巧みに操り表現する仕事にどこか憧れを抱いたのかもしれません。

アナウンサーの仕事というと、何を思い浮かべますか。ニュースを読んだり、おいしいものを食べてリポートしたりする姿でしょうか。おそらく画面でお目にかかるのは、最終段階。放送に至るまでは、長い道のりです。自ら取材に出向いて原稿を書き、仲間と議論を繰り返しながら番組制作は進みます。仲間と真心こめて手がける番組はまるで我が子のよう。私はチームを代表して放送に臨みます。大変なこともありますが、帰り道に「あぁ今日も楽しかった！」と思える仕事です。

この仕事の醍醐味は、様々な方に出会えることです。今までの数え切れない出会いは私の宝であり、大きな支えです。初夏には、松崎町にある「石部の棚田」を訪ねました。小鳥の声がこだまする山あいに、折り重なるように広がる石積みの田んぼ。水鏡となった棚田は青い空を映し、それは美しいものでした。平成に入ってから耕作放棄地となっていたところを、棚田保存会の皆さんが10年以上かけて復田し、今も丁寧に手入れを続けています。20代でも歩くと息が切れるほどの急傾斜なのですが、作業している皆さんは80代というから驚き。「先人が残してくれた財産を、俺たちの代で終わらせるわけにはいかない」と力強く語って下さいました。皆さんの愛情に応えるように輝く棚田は、忘れられない風景です。

磐田で生まれ育ちながら、意外と知らなかったふるさとの魅力。地域の方々に教えていただきながら、静岡の素晴らしさを再発見している毎日です。これからも有意義な時間を皆さんと共有できるよう精進して参ります。

「高知 心の旅」の記録
「建学の精神」のルーツは高知にあった
尾崎青年の足跡を訪ねて

高35回 津川 悟

初代校長・尾崎楠馬先生は高知出身です。24歳まで過ごした高知に「建学の精神」のルーツがあるのではないか。生い立ちから青春時代まで、足跡をたどるため高知を訪問しました。

昨年11月、高知市と安芸市を結ぶ土佐東街道から雄大な琴ケ浜が一望できました。明治11年に尾崎先生が生まれた安芸市赤野甲桜浜の生家のすぐ近くです。海は太平洋。遠州灘と似た砂浜が続きます。

2つの頌徳碑 叔父の強い影響

尾崎先生は数えで3歳の時、安芸市中心部にある母の実家、船本家に預けられます。叔父の楠吉は教育者です。校長を務めた芸陽高等小学校の跡地に教え子が建てた立派な頌徳碑があります。今年3月、碑の解読のため再訪しました。

碑には「資性温厚己ヲ持スルコト謹厳ナリ（中略）啓蒙陶冶ノ恵ヲ被レルモノ万ヲ以テ数フヘシ」とありました。楠吉の孫にあたる浩一郎さんによると、亡くなった後も各地から教え子が訪ねてきたそうです。

5年後に見付中学校に建立された尾崎先生頌徳之碑にも同様の表現があります。「資性謹厳重厚識見高邁ニシテ人格皎潔（中略）卒業生ヲ出スコト二千」

楠吉は碑によると女子教育にも貢献し、晩年は婦人会長など社会事業に尽力しました。尾崎先生は退職後、保護司を長く勤めました。楠吉の影響を強く感じます。

尾崎先生は楠吉とともに高知市に移り、尋常師範学校附属小学校、高知尋常中学校で学びます。さらに高知師範学校に進みます。高知城のすぐ東側、武家屋敷があったところです。いまは時計台がシンボルの高知追手前高校があります。

当時も今も高知城は江戸時代の威容を保ち、付近には県庁、裁判所などが並んでいます。維新、自由民権運動の中心であった土地で学び、尾崎少年の視野は大きく広がったのではないでしょうか。

高知師範学校の跡地。「高知　心の旅」を主宰した元副会長の橋本洋子さん（高14回、中央）、元関東支部長で顧問の近藤彰さん（高11回、右）。（平成28年11月6日）

生家に近い琴ケ浜

高知師範学校に質実剛健の原点

尾崎先生は師範学校時代について「創立五十年」という記念誌に「在学当時の思出」を寄稿しています。見付中学校の校長となって4年目の時です。

このなかで在学中に高知城公園をはさんで1・5キロほど西側の校舎に移転したことを振り返っています。「降りしきる雨の中、泥濘を冒して荷車で校具を運搬した。大切な機械や化学の薬品などは銘々が携へて公園を越して幾回かに運んだ」。

見付中学校も開校直後、旧見付学校の仮校舎から1・2キロ離れた現在の校舎へ移転しました。「自分のものは自分で運べ」と樫の木でできた重い机と椅子を運んだエピソードをほうふつさせます。

尾崎先生は「落成式の時には凧を揚げたり、人形を飾りつけたりして珍しくはしゃいだ」と回想しています。新しい校舎を整えた経験は、見付中学校で運動場、防風堤（小田原山）、プール、花壇などを手作りした労作教育につながったと思われます。わが校訓の「質実剛健」の原点です。

移転先の校舎は現在、大膳町公園となり、師範学校の門と記念碑が残ります。

水泳をした鏡川

▲尾崎楠馬・初代校長
◀叔父の船本楠吉

水泳とボート 文武両道を実践

尾崎先生は授業の思い出として水泳を挙げています。「棒堤に添った鏡川で行はれた最初の試験の三町渡から十町渡、最後に行った巣山附近の五十町渡など今も尚ほ思出の種となって居る」と書いています。1町は約100メートルです。

鏡川は市内の中央を流れる川で、巣山は鏡川が流れ込む浦戸湾にある島です。五台山公園の展望台からよく見えます。公園には尾崎先生とも交流があった浜口雄幸の銅像があります。

見付中学校でも天竜川の河口で水泳をした記録があります。見付中学校で五輪メダリストを輩出するほど水泳が盛んだったのは師範学校時代の経験が源にあったのかもしれません。

水泳に並ぶ思い出としているのは端艇（ボート）です。遠出して手結港（ていこう）の峠の茶屋で名物の餅を食べたと書いています。いまも「澤餅茶屋」の「お茶屋餅」は名物です。

ライバル校に上級生が2回負け、3年生の時に「是非一度は勝ちたい。いや是が非でも勝たねばならぬ、と臥薪嘗膽（がしんしょうたん）的な可なりの猛練習をやった。さうした結果とうとう見事な勝利を得て立派に会稽の恥を雪いだ」とあります。

「文武両道」の原点がここにあります。

「文」については「在学中は可なり熱心に勉強した」とあり、「夏の試験の時はよく外出しては独り静かな処を探しては勉強した」と書いています。そのひとつ、藤並神社は移転前の師範学校と高知城の間にあります。いまは掛川から移り初代の土佐藩主になった山内一豊の銅像が建っています。

「小春日和の日曜にはよく潮江山の裏山に登った」とも書いています。いまでは筆山（ひつざん）と呼ばれています。岩に座って英語を勉強し、「時折眼下の吸江湾を眺めながらボンヤリ将来の空想に耽った」そうです。浦戸湾のことで展望台から東側に見えます。将来、東京で学び、高知を離れて教鞭をとることを想像していたのでしょうか。

尾崎先生は師範学校時代を「自由に伸び伸びと育てられて単調といふよりも寧ろ複雑に変化と色彩とに富んだ思出多き生活をして来た事を今も尚心の底から感謝して居る次第である」と結んでいます。その後の人生観、教育観に大きな影響を与えたといえそうです。

船本楠吉先生頌徳碑。孫の船本浩一郎さん（中央）、碑文を解読した元関東支部長の高田岩男さん（高2回、左）。（平成29年3月4日）

雅号は生地から あふれる愛郷心

尾崎先生は東京高等師範学校に入学し、茨城県立土浦中学校の教員となります。ここで初代教頭の小田原勇先生と出会います。青山師範学校、浜松師範学校を経て、大正11年に見付中学校の校長となりました。

高知市で尾崎先生の甥の妻である本間翠さんにお会いしました。尾崎先生は高知にほとんど帰らなかったそうで、会ったことはありませんが、親族から「楠馬さんは偉かったよ」「静岡に骨を埋めると言っていた」と聞かされたそうです。妹と甥を何度も磐田に呼んでいたといいます。

尾崎先生が故郷を想う気持ちは強かったと思います。雅号の「桜汀」は生地の桜浜に由来します。「磯浪」と題した和歌では「室戸岬打ちよせ来る黒潮の雪とくだくる磯のしら波」と詠んでいます。坂本龍馬や高知城を詠んだ漢詩もあります。

尾崎先生は初代の同窓会長をつとめ「同窓会誌」創刊号の「巻頭の言」に「嬉しきにつけ悲しきにつけ郷里を思うは人間の常である」と書いています。高知を離れたからこそ高知を想い、教え子にも郷里の大切さを説き続けてきました。

土佐の「いごっそう」という反骨精神は信念をもって人格教育を貫いた教育理念につながるものがあるかもしれません。自然豊かな安芸に生まれ、維新の立役者が駆け回った高知の中心地で育ち、青雲の志を抱いて上京した尾崎先生の人生に思いを巡らせました。

■プロフィール■
昭和62年、日本経済新聞社に入社。現在は編集局次長。同窓会関東支部幹事。

故郷の周辺を訪ねて

桶ケ谷沼の自然保護に関わる同窓生たち

執筆：細田昭博（高21回）　取材・編集：浅羽 浩（高22回）

桶ケ谷沼ビジターセンター
細田昭博 所長

磐田原台地東縁に位置する桶ケ谷沼（周囲1・7㎞、面積7・43ha）周辺には、多くの動植物が生息しており、とりわけベッコウトンボをはじめとするトンボは約70種類の生息が確認されている。このほか、マガモなどの野鳥や水生植物も多く、平成3年には、静岡県の自然環境保全地域に指定された。桶ケ谷沼の環境保全・調査研究には桶ケ谷沼ビジターセンター所長の細田昭博さん（高21回）をはじめ、多くの磐田南高校同窓生が関わっている。細田所長にお話を伺った。

ベッコウトンボ

桶ケ谷沼

黒澤良房先生に叱られて

動植物が好きだった私は生物部のシダ植物班に入りました。生物部の野外活動で、森町の葛布周辺へ植物採集に行った時のことです。興味は植物よりも昆虫の方が勝っていた私は歩きながら虫ばかり採っていました。それを見た黒澤先生から「植物観察に来たのだから虫でなく、植物を採集しなさい」と叱られてしまいました。

桶ケ谷との出会い

ある時、高校に行く途中クロスジギンヤンマの雄が落ちていました。青い目、黒いすじのある緑の胸、黒に青いまだらがある腹部、何と綺麗なトンボだろうと感動し、これからはトンボを重点的に調べようと思いました。

小さい頃、サクラの木を植える父親の背中にしがみついて見た鶴ケ池にはきっとトンボが多いだろうと、中泉（坂上町）の自宅から自転車で30分かけて鶴ケ池まで行きました。帰りに寄った桶ケ谷沼にもトンボがたくさん飛んでいました。

桶ケ谷沼の北側にはタイヤや空き缶などのゴミが捨てられていましたので、トンボの住む沼を綺麗にしようと、ゴミを自転車に積み込んで自宅に持って帰りました。日曜日毎に運び込まれるゴミの処理に困ったのでしょう、父親からゴミを持ってきてはいけないと叱られました。

桶ケ谷沼の調査に本格的に着手

昭和45年に野路会に入会し、大庭俊司さん（高19回）達と桶ケ谷沼の調査を本格的に始めました。大学での私の卒業研究は桶ケ谷沼をフィールドにした「クロイトトンボ属の季節変異」でしたので、在学中、頻繁に沼を訪れました。

ところが、昭和47年に沼の埋め立てが始まり、土砂の下に多くのトンボのヤゴが埋められていく様子を見て、いてもたってもいられなくなりました。埋め立てを思いとどまってもらい、どうしても沼を、トンボを守るぞと決心しました。

そんな中、NHKが「桶ケ谷沼の秋」の番組を制作し放映されました。取材を受けた私は、番組の中で沼が守られるまで活動することを明言しました。また、野路会は、磐田市教育委員会から、桶ケ谷沼の調査を依頼されることになり、二年間の調査の結果、沼およびその周辺にはトンボだけでなく、多くの動植物が生息していることが分かりました。

ベッコウトンボ調査会（毎年4月29日・5月3日）

磐田青年会議所との協働による取組

野路会・静岡県・磐田市の三者で沼を守るか埋め立てるかの協議を重ねました。そうした折、磐田青年会議所（磐田JC）理事長の鈴木裕司さん（高19回）が、大庭俊司さんと同級生であったこともあり、大庭俊司さんと私が磐田JCの会合で沼の説明をすることになりました。

その結果、磐田JCの活動の中に、トンボを利用した街づくりが取り入れられました。ジュビロードの商店街にはトンボのシールが貼られ、トンボの饅頭やお酒も売り出されました。

「桶ケ谷沼を考える会」発足

昭和61年12月には「桶ケ谷沼を考える会」が発足し、ナショナルトラスト運動が始まりました。会長にJC理事長の今村信大さん、副会長に鈴木裕司さんが就き、このほか、寺田幸宏さん（高8回）、大庭俊司さん、岡本康哉さん（高24回）などが会員となりました。会報の発行や観察会の開催など積極的な活動が始まりました。そんな中、平成元年、県は20億円で沼を買い取ると発表しました。

ベッコウトンボ生息地危機に

平成三年、桶ケ谷沼およびその周辺の約53haが静岡県の自然環境保全地域に指定されました。ところが、さまざまな要因により、沼の水質は悪くなりトンボは激減、アメリカザリガニが大発生、シンボルであるベッコウトンボも減ってしまいました。

そのため、ベッコウトンボが産卵し幼虫が育つ環境を整備することが急務となり、緊急避難場所として、沼の周囲にコンテナを置きました。沼からベッコウトンボを羽化させるためには避難場所でベッコウトンボが守られている間に沼本体を生き返らせる必要がありますが、解決策は容易に見つかりません。現在も、桶ケ谷沼管理運営委員会（野路会・桶ケ谷沼を考える会・県・市）で試行錯誤を繰り返しながら対策を進めています。

毎年行っているコンテナ整備作業

「ビジターセンター」の開館

平成16年には環境省・静岡県・磐田市の三者で建設した「桶ケ谷沼ビジターセンター」がオープンしました。会合場所の提供、啓発活動、調査研究活動など、沼の保全活動の拠点施設ができたことは大きな前進です。

トンボはまだまだ戻ってきていませんが、保崎有香さん（高54回）のような若い人材が活躍してくれています。平成29年から、次世代の桶ケ谷沼を背負って立ってくれる人材を育てるために「おけがや自然塾」を発足させました。終わりの見えない活動ですが、今後もみんなで力を合わせて考え、行動していこうと思っています。

「自立」した大人になるために

校長　白畑　豊

同窓会員の皆様、母校磐南に対する日頃からのご支援、ご協力に対しまして、厚くお礼申し上げます。昨年4月、40年ぶりに校長として母校に戻ってきた当初「女子生徒が多くて華やかで、男子生徒がスマートになったな」と感じましたが、一年経った今、いやいや男女ともに校訓「質実剛健」に通じる芯の強さ、逞しさを持っていると思い直しています。私自身、第28回卒のOBとして、母校の校長を勤めることができる幸せと、その責務をやり遂げる覚悟を持って全力で取り組んでまいります。

今年度、私から生徒たちに送っているメッセージのテーマは「自立」です。一学期の始業式で、「自分の価値を他人に決定してもらうことを依存、自分の価値を自ら決めることを自立」というアドラー心理学に関する言葉を紹介しましたが、なかなかわかり難く生徒もしっくりこなかったかもしれません。先日、日本体操界を牽引する指導者で静岡県出身の水鳥寿思さんが、あの内村航平選手と白井健三選手について、こんなことをおっしゃっていました。「彼らは世界の誰かに勝つとか負けるとかを全く意識していない。相手との比較ではなく、今の自分と理想の自分を比較している」と。すごいですね。彼らは、まさに誰にも依存しない「自立」の境地に達しているのでしょうか。

「自立」とは、言い換えれば、他者と比較することなく、また自分が優れていることを誇示することもなく、自分が選んだ生き方の軸である「スタイル」で、オンリーワンを目指すことだと思います。良し悪しで決まる「スキル」ももちろん大切ですが、有る無しで決まる「スタイル」を追求する姿勢は、これからの時代益々重要になってきます。だからこそ、生徒たちには、自分の進路を自分で決定することはもちろん、これからの人生で苦難に立ち向かったときに、「悪いあの人」を非難し、「かわいそうなわたし」をアピールすることなく、「これからどうするか」を語り合える「スタイル」を持った「自立」した大人になってほしいと思っています。

五年後に創立百周年を迎える本校が、「質実剛健」の魂を引き継いで益々発展していくためには、まず、私たち教職員が、自分の「スタイル」をしっかり持っていなければなりません。そして、卒業時に「○○先生のお陰で合格できました」ではなく、「自分の力と意志で進路決定しました」と自信を持って言える「自立」した磐南生を支援する、「自立」した大人でなければならないと思っています。最後になりますが、私自身、退職までの残り一年、同窓生の皆様の期待に応えられるよう、改めて全力で取り組んでいくことをお誓いし、同窓会の益々のご発展をお祈りして挨拶といたします。

はぐま祭を終えて

生徒会長　三年　鈴木晨順

今年のはぐま祭は「翠No imagination no WINGs.」というテーマのもと開催され、大きな盛り上がりを見せました。

今年度は本部役員と手伝いの生徒を含む総勢20名で臨んだはぐま祭となりました。「これまでにないはぐま祭を」という思いのもと、多くの方々の支えを頂きながら成功させることができたと感じています。平野先生をはじめとした職員の方々、準備の段階から熱心に取り組んでくれた生徒の皆さん、そして、当日足を運んで頂いたお客様。決して、自分たちの力だけでは成功させることは出来ませんでした。本当にありがとうございました。

また、当日は、学校全体が活気に満ち、磐南生一人ひとりの持つヤングパワーで溢れていました。創意工夫が随所に見られた部活動やクラスの展示をはじめ、保護者の皆様にもご協力頂いたPTAカフェやバザーも大盛況でした。繰り返しにはなりますが、たくさんの方々の協力があってこその成功です。心より感謝いたします。

このはぐま祭が一人でも多くの方の記憶に残るものになっていれば、本当にうれしく思います。そして、今年のはぐま祭が磐南に新たな刺激を与え、来年度以降に繋がるものになっていたら幸いです。来年もぜひお越しください。お待ちしております。

マウンテンビュー訪問団生徒の感想

すべてが新鮮で、美しかった思い出

二年　藤原聖佳

私はMV高校訪問に参加したくて磐田南高校に入学しました。将来は英語を一つのツールとして仕事をしたいと考えているからです。

私が今回の研修で学んだことが二つあります。一つは、様々な英語に対する理解が深まったことです。私のホストマザーがベトナムから移住された方で、英語の発音やアクセントがベトナムに住んでいる方独特の、俗にいうベトナム英語という感じで最初は戸惑いました。研修前、私にとって正しい英語とはアメリカ英語でした。でも、本当の「正しい英語」というものはないということに気づくことができました。中国人が話す中国英語も、イギリス人が話すイギリス英語も、ホストマザーの使っていたベトナム英語も、すべて英語であると感じました。いろんな表現、発音やアクセントがあるのは当たり前のことで、それを認めあうことが英語や異文化への理解につながるのです。

二つ目は、「感謝する」ということです。磐田南高校に通わせてくれて、さらに、アメリカへ短期研修として行かせてくれる親、支えてくださった英語科の先生や部活の顧問の先生、先輩や、同級生、ホストファミリー、さまざまな人の協力により貴重な体験をすることができたということに感謝しています。そして、本当に「感謝」の心を示すためには、今回の研修を自分や周りの人のために役立てていくことだと心から思います。「感謝する」とは、テレビや雑誌で見かけるありきたりな言葉と感じる人もいると思いますが、とても大切なことだと感じています。（一部抜粋）

念願だったMV

二年　松原千夏

11月下旬、この研修メンバーの選考通知を見たとき、私はこの上なく嬉しく思いました。遡れば2年前、磐南に通っていた先輩がマウンテンビューに行ったと聞き、まだこの学校に入学するかどうかもわからない頃から、私はこの研修に興味を持っていました。

念願だった夢が叶い、嬉しさと同時に、この研修を一生忘れられないものにしようという思いも膨らみました。Cultural Assembly（体育館で全校生徒に日本のことを紹介する会）の司会をやることを決心しました。

やりがいは絶対にあると確信していましたが、この研修の中で正直一番不安だったのがCultural Assemblyでした。司会に決まった12月からずっと言葉をどうしようとか、面白いネタを入れた方がいいのではないかなど悩みに悩みました。そして当日、朝はどうしようもないくらい緊張していましたが、本番直前になれば全然そんなことはありませんでした。終わったあと、マウンテンビューの生徒から「良かったよ！」と言ってもらえた時は、今まで頑張ってきてよかったと思えました。先生方には、司会をやらせていただく機会を与えてもらったことに本当に感謝しています。

私がなぜここまでAssemblyにこだわるのかと言えば、これは磐南だけでなく、日本のイメージが私たちにかかっていると思うからです。これから先もマウンテンビューに行く後輩たちには、ぜひ、Cultural Assemblyを良いものにしてもらいたいと思います。（一部抜粋）

磐南に入学して

一年　安間幹人

本校に入学してから早三ヶ月となりました。そして、三ヶ月という短い間の中で、これまでに経験したことのないものをたくさん吸収できました。

まず、始めに学習面についてです。入学したての頃は、目を見張るほどの学習量に戸惑いを感じました。そこで、毎日の授業に重点を置き授業で学んだことを完璧に憶えるまで復習し、それを予習につなげていきました。それにより、予習・授業・復習のサイクルを確立することができ、同時に少しずつ結果もついてくるようになりました。これからますます学習量も増えていくと思います。油断すれば一気に置いていかれてしまうので日々コツコツと学習を積み重ねていこうと思います。

学習面での効率的な時間配分は、他の場面でも生かされることに気がつきました。その一つとしては部活動が挙げられます。僕は陸上部で長距離走をやっています。入部当時、先輩たちのon.offの切りかえの早さに驚き、一分一秒を大切にしなければならないと強く感じました。先輩たちが当たり前にしていることが僕はまだまだ出来ていないと思います。また中学校とは違い、自ら行動しなければならない場面が多いので、より一層時間に敏感にならなければなりません。先輩たちの技量には、僕はまだ到底及びません。努力や経験値の差を強く感じます。これから、部活動でもどんどん練習を積み重ねて少しずつでもいいので、「成長できた」と思えるようにします。そして、次の大会では自分のペースで最後まで走りきるようにします。

一学期間はとても充実してたくさんの貴重な体験をしました。これからも良いもの悪いもの、いろいろな経験をするでしょう。そういう一つ一つの経験を大切にしてさまざまなことに挑戦していきます。

29年度入学式
（平成29年4月7日）

陸上競技部の栄光

陸上競技部は、創部から95年の歴史の中で、次のように、五度の全国総合優勝を果たした全国有数の実績のある部である。

見付中学として
①第29回全国中学校総合体育大会総合優勝

磐田一高として
②第1回全国高等学校総合体育大会総合優勝

磐田南高として
③第5回全国高等学校総合体育大会総合優勝
④第7回全国高等学校総合体育大会総合優勝
⑤第25回全国高等学校総合体育大会総合優勝

過去の部員の中には、当時の高校記録の樹立や、世界陸上へ出場という実績もあげている、実に輝かしい伝統を誇る部である。

第29回全国中学校総合体育大会総合優勝（昭和22年7月）

第５回全国高等学校総合体育大会総合優勝

第 25 回全国高等学校総合体育大会総合優勝

第７回全国高等学校総合体育大会総合優勝

現在の活動状況

現在、本校陸上競技部は、部員64名（男子36名・女子28名）で活動している。現在も、臙脂（えんじ）に「M」のユニフォームと「IWATAジャージ」を大切に着用している。そして、諸先輩が営々と築きあげたこの伝統を引き継ぐべく、全国大会を目指して日々練習に励んでいる。

本年度も、7月29日～8月2日において、山形で開催された全国高等学校総合体育大会では、女子400mと女子400mハードルに出場を果たした。

また、10月6日～10日に行われる国民体育大会に男子棒高跳に出場、10月20～22日に開催されるU20・U18日本選手権においては、男子棒高跳・女子800m・棒高跳に出場が決定している。

部活動の目標は、「全国大会で戦えるチームになること」である。また同時に、陸上競技を通して、将来社会で活躍するための人間力を養うことを大切にしている。陸上競技は個人種目ではあるが、練習や試合は一人ではできない。一人の発言や行動によって、練習の雰囲気を格段に向上させることができる。高い目標を掲げ、仲間と協力することによって充実した練習が可能となり、それが好結果につながる。それこそが磐田南高校陸上競技部であると考えて、実践している。

ＯＢ・ＯＧの皆様には、この場を借りて深く感謝の意を表したい。毎年、「陸上競技部ＯＢ会」からは活動協力金をいただいている。それは、先ず日々の練習の場である競技場使用料として大切に使わせていただいている。

またそれのみならず、多くのＯＢ・ＯＧの皆様から、多方面の支援をいただいている。専門技術についての献身的な指導、個人的な部への支援、試合会場に毎回足を運んでの応援、学校のグランドに訪れての、スポーツドリンクや大判焼きなどの差し入れなどなどである。

多くのＯＢ・ＯＧの皆様のこのような支援に対する感謝の気持ちを忘れず、磐田南高校陸上競技部の新たな一ページを歴史に刻み、更に部を発展させられるよう、部員一丸となって努力して行く覚悟である。

（顧問　榎本好孝　村松芳郎）

全国高校総体　女子 400m ハードル　鈴木優花

全国高校総体　女子 400m
U20 日本選手権　女子 800m　中谷桐子

国民体育大会　少年男子棒高跳
U18 日本選手権　男子棒高跳　平川巧

U18 日本選手権　女子棒高跳　鈴木舞雪

現在の陸上競技部のメンバー（平成29年5月）

大学合格状況

国立大学	現役	過年度
北海道	5	3
弘前	1	
東北	3	2
秋田	2	
山形		1
茨城	1	
筑波	3	
群馬		1
埼玉	6	1
千葉	4	1
東京海洋	2	
電気通信	1	
東京		2
東京学芸	1	1
東京農工	2	
一橋	2	1
横浜国立	3	1
金沢	4	4
福井		2
山梨	5	
信州	1	1
岐阜	13	
静岡	15	8
浜松医科（看）	1	
愛知教育	1	
名古屋	13	1
名古屋工業	3	
三重	1	
京都	2	2
大阪	3	
奈良女子		1
鳥取	1	
岡山	2	1
広島	4	
徳島	1	
愛媛	1	
高知	3	1
九州		1
大分		1
宮崎	1	
鹿屋体育	1	
琉球	1	
国立大 合計	**113**	**37**

公立大学	現役	過年度
高崎経済	1	
首都大東京	1	1
横浜市立	4	1
新潟県立		1
長岡造形	1	
福井県立	1	
都留文科	3	
静岡文化芸術	2	1
静岡県立	14	1
愛知県立	4	
名古屋市立	1	
岐阜薬科	1	
三重県立看護	1	
滋賀県立	1	
京都府立	2	
大阪府立	1	
高知工科	1	
公立大　合計	**39**	**5**

主要私立大学	現役	過年度
青山学院	4	3
慶応義塾	4	9
芝浦工業	32	7
上智	2	3
中央	17	
東京農業	10	
東京理科	11	9
日本	15	8
法政	16	3
明治	20	10
明治学院	5	2
立教	5	
早稲田	7	10
聖マリアンナ医科		1
南山	9	4
同志社	17	6
立命館	49	9
関西	7	7
関西学院	8	5

在校生の活躍

野球部

●第99回全国高等学校野球選手権　静岡大会2017

1回戦　草薙球場　7月15日
磐田南高校　5　－　4　静岡商業高校
2回戦　草薙球場　7月17日
磐田南高校　9　－　10　浜松学院高校

陸上部

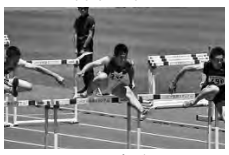
●全国高校総合体育大会（ＮＤソフトスタジアム山形）

女子400m　中谷 桐子　出場
女子400mH　鈴木 優花　出場

香取直樹

●東海高校総体
（パロマ瑞穂スタジアム）

男子110mH　香取 直樹　出場
　　弓岡 竜治　出場
男子棒高跳　平川　巧　出場
　　鈴木 快生　出場
女子400m　中谷 桐子　6位
女子800m　中谷 桐子　7位
女子400mH　鈴木 優花　4位


弓岡竜治

●東海陸上競技選手権大会（岐阜メモリアルセンター長良川競技場）

男子棒高跳　平川　巧　出場
女子棒高跳　鈴木 舞雪　出場

鈴木快生

水泳部

●平成29年度全国高等学校総合体育大会水球競技東海予選

磐田南高校　3－19　四日市中央工業高校
中島 一星、渡邊 稜、才田 倫太郎、昆野 馨、國村 迪央、鈴木 健資、田代 有輝、鈴木 貴水、大庭 悟史、杉山 壮清、平塚 雅浩、柴田 剛、寺田 夏那太
磐田南高校　3－1　岡崎城西
磐田南高校　3－2　稲生　　最終結果　5位

理数科

●第13回日本物理学会ジュニアセッション（大阪大学豊中キャンパス）

発表テーマ　「縞構造を伴うエルブスと OH バンド大気光波動の関係」　38HR 橋本 恵一・25HR 太田 諭志・24HR 斎須 けいら　成績　奨励賞

ポスター発表では、緻密で精度の高い観測成果や独創的なアイデア、ポスターのレイアウトの美しさなどに対して、審査委員や他校の生徒からも高い評価を受け、奨励賞を受賞しました。

●理数科課題研究発表会

5月24日㈬にワークピアにて行なわれ、審査の結果、地学「鮫島海岸にみられる板状海浜砂固結物の形態と成因」が優秀研究として8月に行なわれる全国発表会に出場することになりました。

班員　橋本恵一　宮平駿太　新島辰弥　田中梨華子
　　大石憲吾　田坂　茜（38HR）

●平成29年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会（神戸国際展示場）

発表テーマ「遠州灘鮫島海岸に見られる板状浜砂固結物及び鉢巻石の形態と成因 」

海岸でよく見られる砂の固まりに着目して、その形態や成因を緻密なフィールドワークと室内実験により解明した研究です。生徒らしい発想と着眼点に審査委員から高い評価を受け、数学・情報・その他の部門の発表中第２位の成績でした。

地学部

●日本地球惑星科学連合主催の高校生ポスターセッション（千葉県幕張メッセ）

全国の SSH 校をはじめ、81 件の発表がありました。本校の発表テーマは以下の 3 件です。

1　遠州灘鮫島海岸に見られる海浜砂固結物の形態と成因
　理数科課題研究地学班（38HR 宮平 駿太）
2　平成 27 年 9 月関東・東北豪雨に伴うスプライトの発生メカニズム
　スプライト班（38HR 橋本 恵一）
3　静岡県太田川河口で発見された白鳳地震以前の津波堆積物の年代の推定
　地震気象班（35HR 山田 翔梧）

スプライト班の研究が優秀賞（81件中第２席相当）を受賞しました。

●第41回全国高等学校総合文化祭宮城大会自然科学部門研究発表地学部門（石巻専修大学・仙台国際センター）

2 年　斎須 けいら、2 年　太田 諭志　優秀賞（発表件数 35 件中、第 2 席相当）

「縞構造を伴うエルブスと OH バンド大気光波動の同時観測及び大気光波動観測システムの改良」

研究発表の地学部門に出場し、発表件数 35 件中第 2 席に相当する優秀賞を受賞しました。

講評では「未解明な問題が多い高高度発光現象に着目して、高校生が観測機材に工夫を凝らして緻密で継続的な観測を行い、新しい発見につながった点が評価できる。」というコメントを頂きました。

ビジュアル部

●第41回全国高等学校総合文化祭　写真部門（せんだいメディアテーク 及び 仙台市民会館）

2 年　大石 華子「ハイ、チーズ！」奨励賞
3 年　橋本 果奈 「哀しみのかけら」出品

全国各地での選考を通過した優秀な作品約 310 点が出品されました。うち、最優秀賞 3 作品、優秀賞 7 作品、奨励賞 20 作品が選ばれます。全国への出品も難関ですが、全国作品の 1 割しか入賞しない奨励賞の受賞は大変素晴らしいことです。大石さんは県の代表として唯一の入賞でした。

大石 華子

橋本 果奈

文学部

●第41回全国高等学校総合文化祭　みやぎ総文2017（塩竈ガス体育館・仙台国際センター）

文芸部門 散文　3 年田坂 茜 「ハマオカの手」出品

平成 28 年度に行われた、高校生文芸コンクールで入賞し、昨年に続いての全国高総文祭への出品となりました。震災をテーマに扱った作品ということもあり、審査員からの評価も高いものでした。

田坂 茜

かるた班　3 年石川 裕望　静岡県チーム 5 将、全国ベスト 16

県内から選抜された静岡県チームの 5 将として大会に参加しました。静岡県チームは予選リーグを快勝し、決勝トーナメントに進出しましたが、1 回戦で優勝した東京都チームと当たり、健闘したものの敗れ、ベスト 16 に留まりました。石川（225 番）は予選リーグ・決勝トーナメントで起用され、チームの活躍に貢献しました。

石川 裕望

JXTGエネルギー
新車・中古車販売
株式会社 金重
日新火災
代表取締役 鈴木 厚（高21回）
本社 〒438-0835 静岡県磐田市豊田西之島258
TEL〈0538〉32-5185 FAX〈0538〉32-5186

遠州 憩いの駅
いいとこまんぢゅう
大石 祐介（高48回） 大石 義典（高21回）
地場野菜直売&カフェレストラン
いいとこまんぢゅう
(株)加登屋
〒438-0002 磐田市大久保896-48
TEL.0538-38-1000 FAX.0538-38-2220
OPEN 8:30～18:00（日曜定休）
ららぽーと磐田より東へ800m

人・出合い・感動……そして発見
ホテル観世
袋井駅前 TEL.（0538）43ー1212
比那 純（高15回）

ISO9001／ISO14001認証取得
総合建設業
石川建設株式会社
磐田市今之浦5丁目1番地1
TEL.0538ー36ー0021㈹
http://www.ishikawa-cnst.co.jp

地域に密着した医療を目指します
内科・小児科 木佐森医院
院長 木佐森正樹（高25回）
〒438-0077 磐田市国府台55-1
TEL.0538-32-2555
往診応談 禁煙治療（保険可）

愛される お弁当 いわきゅう
鷹野 靖（高15回）
〒438-0814 磐田市気子島961
TEL 0538-36-9261 FAX 0538-37-3572

お近くの杏林堂薬局にて 皆様のご来店を お待ちしております。
杏林堂 SUPER DRUG STORE
楽しい情報が満載！ 杏林堂のホームページ ご覧ください！
http://www.kyorindo.co.jp
QRコード▲
株式会社 杏林堂薬局 〒430-7713 浜松市中区板屋町111-2 浜松アクトタワー13階
TEL（053）453-5111㈹ FAX（053）453-5112

応援します あなたの笑顔
Iwata Shinkin Bank
磐田信用金庫
いわしんイメージキャラクター いちゃん（あいちゃん）
いわしん公式 LINE@

代表取締役社長 金原 一平（高16回）
静岡県磐田市見付1963-11
0538-35-5404（本社）
制服のキンパラ

名古屋・岐阜・津・浜松・静岡・沼津 全15校
学校法人 名古屋大原学園
学園長 杉山孝男（高15回）
本部 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-20-8
浜松校 〒430-0928 浜松市中区板屋町101-8 TEL.053-455-4408

処方せん受付 キヨーレオピン サクベルス
国府台薬局
磐田市国府台94-3 TEL 35-2175 FAX 33-0770
鈴木麻里奈（高38回）

和の心 贈ります
かしゆう
菓子勇本店
磐田のものがたり
6代目店主 山田 佳幸（高28回）
磐田市中泉坂上町 TEL·FAX 0538-32-3340 ホームページ▶kashiyu.jp

長尾 仁 税理士事務所

税理士 長尾 仁（高20回）

〒438-0086 磐田市見付3719-1
TEL.0538-35-9221　FAX.0538-32-8735

レンタル 建設仮設材レンタル　人材 人材紹介・派遣サービス
請負 クサビ式足場請負　イベント 観覧席・祭ステージ

site 安心の須山建設グループ
株式会社 サイト

代表取締役会長 大庭 義信（高20回）

本社 浜松市西区伊左地町2790－1 ☎(053)485－4126(代)
東遠営業所 掛川市大坂6369 ☎(0537)72－4129
人材事業部 0120-452-310

http://www.your-site.co.jp

さわやかな環境をクリエイト
BANNAN
磐南浄化槽株式会社

代表取締役社長
木戸 智弘（高34回）

磐田市下岡田358-2 ☎36-0051 FAX 37-6622

冬 式典時の暖房に！
・バツグンの静音性
・省エネ性アップ
・安全設計

VAL6 SR バルシックス エスアール

夏 熱中症対策に！
水の力で
マイナス5℃の涼風

RKF series 505・405・303
気化式冷風機
RKFシリーズは小さな電力で熱中症対策できる商品です

光・風・熱の技術で次の100年へ
静岡製機株式会社
産機企画課 〒437-1121 静岡県袋井市諸井1300
TEL.0538-23-2825 FAX.0538-23-2890

ブランドリサイクル
PickUP
宮竹店・西伊場店・磐田店・掛川店・宮竹バザール店
藤枝高洲店・静岡登呂店・登呂バザール店

金・ブランド買取専門店
KINBURRY キンバリー
浜松高林店・藤枝インター店
静岡SBS通り店・静岡草薙店・静岡沓谷店

株式会社 ピックアップジャパン
本部 磐田市今之浦3－4－2
URL：http://www.pickup-japan.com

株式会社 遠州日石
車検の窓口
検索

代表取締役社長 鈴木 裕司（高19回）
車検の窓口責任者 渡辺 交司（高46回）

浜松市東区和田町811（自動車街 宮竹交差点）
TEL.0120-976-544　営業時間：9:00～20:00

創業六四年 とん汁の老舗
桝形
ます　がた

代表取締役 粟倉浩二（高23回）

〒438-0838 静岡県磐田市小立野343
TEL.0538-35-4344 FAX.0538-35-4568

静岡県戸建住宅建築実績
おかげさまで 15年連続No.1
セキスイハイム東海
〒430-7725 浜松市中区板屋町111-2 アクトタワー25F
フリーコール 0120-000-816　816t　検索

ネジ 小物部品・締結部品・精密ネジ部品
ISO9001 ISO14001 認証取得
株式会社 マルイチ

代表取締役会長 安間信義（高7回）
代表取締役社長 安間浩彦（高33回）
取締役 松島孝久（高17回）

本社 〒430-0898 浜松市南区瓜内町540 TEL(053)441-4684㈹ FAX(053)441-3452
ホームページ http://www.ohha.net/maruichi/
半田山工場 〒431-3125 浜松市東区半田山四丁目11-1 TEL(053)545-9735

TK TANIKO 株式会社 タニコー

あなたの大切な人を救う緊急救助用
ラクラク39バール RAKURAKU 39 BAR Made in Japan

高33回 水谷眞啓　高33回 青山光男（旧姓 金原）
磐田市南平松5番地 TEL 0538-67-1880(代) FAX 0538-67-1881
mizutanim@taniko.co.jp http://www.taniko.co.jp

TKC コンピュータ会計
山田会計事務所

税理士 山田敏康（高24回）

〒437-1203 静岡県磐田市福田453－8 TEL(0538)55-2115 FAX(0538)55-3484

総合建設業
天龍土建工業株式会社

代表取締役 長谷川 智彦（高34回）

本社 〒431-3314 浜松市天竜区二俣町二俣1382-2
TEL〈053〉926-2156㈹ FAX〈053〉926-2160番

★平成29年度各種当番年次★

- 卒業10周年　高校58回生（新年次役員選出）
- 卒業20周年　高校48回生（総会当番）
- 卒業30周年　高校39回生（慰霊祭当番）
- 卒業40周年　高校29回生（同窓会に資金援助）
- 卒業50周年　高校20回生（母校に資金援助・同窓会より銅メダル贈呈）
- 卒業60周年　高校10回生（同窓会より銀メダル贈呈）
- 卒業70周年　見中21回生（同窓会より金メダル贈呈）

平成29年度校内幹事役割分担

総務・役員会	清水　格 深田雅一 大庭久幸	佐藤正明 青木和彦	鈴木敦士 天野真秀
会　　計	大庭久幸	青木和彦	
名簿編集・管理	天野真秀	榎本好孝	
慶　　弔	芳野博之	寺田真也	
はぐま会館	大庭久幸	鈴木敦士	匂坂真也
同窓会だより	青島玲子 小粥美穂	芳野博之 鈴木文基	村井雅子
ホームページ	寺田真也	村松芳郎	

同窓会役員紹介

会　長	伊藤英明（高15回）
副会長	仲川勝彦（高16回）　鈴木裕司（高19回） 谷口智子（高21回）　浅羽　浩（高22回） 鈴木一雄（高24回）　鈴木万里子（高25回）

平成29年度会務計画

4／7	母校入学式 保護者オリエンテーション
4／25	校内幹事会
4／28	会計監査
5／12	役員会・役員と校内幹事との懇親会
6／9	役員会
6／17	評議員会　はぐま会館
	卒業50周年記念事業（高20回） 母校に資金援助（20万円）
7／21	役員会
8／19	総会前日打合せ（役員，当番年次，校内幹事）
8／20	慰霊祭（高39回担当）　はぐま会館
	総会（高48回担当） 磐田グランドホテル 卒業40周年事業（高29回） 同窓会に資金援助20万円
10／10	同窓会だより39号発行
11／10	役員会，総会当番引継ぎ会（高48、49回）
2／2	役員会
2／17	評議員懇親会
2／28	高校第70回同窓会入会式
3／1	高校第70回卒業式

尾崎先生墓前に第九十一回総会開催を報告

総会前日の8月19日、同窓会役員と総会実行委員の皆さんで、尾崎校長の墓前に詣でました。総会開催のご報告と、先生の建学の精神・同窓会への思いを学び、受け継いでいくことを誓いました。

事務局より報告

長年、本校同窓会の校内幹事長をお務めいただいた永田淳先生が、本年3月末をもって定年退職され、4月より、その任に就きました。創立100周年を5年後に控え、力不足ではありますが、その足固めができればと考えております。

今年度の同窓会総会、慰霊祭も無事終了し、関係の当番年次の方には大変お世話になりました。このような大きな行事を通して、同窓会員の皆様が母校に抱く熱い想いを感じることができました。今後とも同窓会発展のため、皆様の熱い想いを賜りますよう宜しくお願い致します。

校内幹事長 清水 格（高32回）

編集室より

今年の同窓会総会は、創立100周年を目指して、母校・同窓会のますますの発展を願う伊藤会長と、在校生の成長と幸せを願う白畑校長の、熱意溢れるものとなりました。

懇親会では、金メダル受賞者20名という、大勢の方がご出席くださり、とても嬉しいことでした。見中21回生の皆様は学生時代、悲惨な戦争を体験され、生き抜いてこられた方々です。矍鑠（かくしゃく）としたお姿に、襟を正す思いでした。

同窓会にご寄付もいただきました。ありがとうございました。大切に使わせていただきます。

同窓会だよりも、皆様の思いを胸に、ここに、第39号を作り上げることが出来ました。

発行に際して、ご寄稿・取材にご協力くださいました同窓生の皆様、そして在校生の皆さんに編集委員一同、心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

編集委員長　谷口智子

編集委員

伊藤英明（高15）仲川勝彦（高16）
鈴木裕司（高19）谷口智子（高21）
浅羽　浩（高22）鈴木一雄（高24）
鈴木万里子（高25）鈴木文基（高27）
青島玲子（高33）

尾崎楠馬先生遺稿集
昭和37年8月5日

尾崎先生の漢詩、和歌、俳句の他、随想、書簡、さらに葬儀での弔辞、教え子らの追想を収録。昭和29年に亡くなったあと、満7年の忌を控えて遺稿集の計画が具体化し、同窓会を中心に刊行会が組織され、昭和37年に発刊された。編集後記には「本書の成るについて、終始その推進役となり、また編集陣に激励を与えられたのは、同窓会関東支部有志の面々である」と記されている。

（はぐま会館所蔵）

同窓會々誌
創刊号
昭和5年7月24日

同窓会総会第1回が、昭和3年元旦午後1時より見付中学校講堂で開催され、初代会長尾崎先生の下、見中同窓会が設立された。この冊子はその2年後、同窓会誌創刊号として発行され、尾崎校長巻頭言に続いて卒業生の近況報告、随想、創作文や同窓会規約・会計報告、さらには同窓生第1回～第5回4年修了者425名の名簿が掲載されている。（はぐま会館所蔵）

平成29年度磐田南高校同窓会会計予算

収入　平成29年4月1日～30年3月31日　（単位：円）

科　目	金　額	備　　考
同窓会入会金	3,852,000	平成29年3月卒業生321名×12,000円
預金利息・配当金	35,000	
寄　付　金	200,000	卒業40周年寄付金（高29回）
雑　収　入	200,000	同窓会報広告代等、同窓会総会メダル代
前年度繰越金	188,275	
合　計	4,475,275	

支出　（単位：円）

科　目	金　額	備　　考
会務費	1,500,000	
会　議　費	220,000	役員会、評議員会等会議費
総会・慰霊祭費等	400,000	同窓会総会、慰霊祭費用等
支部総会・年次運営費等	620,000	支部総会助成、祝儀、旅費等
慶　弔　費	150,000	転退職餞別、慶弔費等
事　務　費	100,000	通信費、事務費等
事務局費	10,000	人件費、交通費
事業費	2,950,000	
卒業記念品代	200,000	校章入り印鑑
会報発行費	2,400,000	同窓会報編集・印刷・郵送費等
教育振興費	150,000	東海大会等出場選手激励金
諸　　費	200,000	ホームページ運営費
予備費	25,275	
予　備　費	25,275	
合　計	4,475,275	

平成28年度磐田南高校同窓会会計決算報告

収入　平成28年4月1日～29年3月31日　（単位：円）

科　目	金　額	備　　考
同窓会入会金	3,924,000	平成28年3月卒業生327名分
預金利息・配当金	31,866	
寄　付　金	200,000	卒業40周年寄付金（高28回）
雑　収　入	294,650	同窓会報広告代、同窓会総会メダル代
前年度繰越金	452,813	
合　計	4,903,329	

備考：平成29年3月卒業生同窓会入会金　3,852,000円（12,000円×321名）は2月21日に入金されていますが、平成29年度分収入とさせていただきます。

支出　（単位：円）

科　目	金　額	備　　考
会務費	1,454,146	
会　議　費	217,634	役員会、評議員会等会議費
総会・慰霊祭費等	382,016	同窓会総会、記念メダル代、慰霊祭費等
支部総会・年次運営費等	514,540	支部総会助成、祝儀、旅費等
慶　弔　費	190,500	転退職餞別、慶弔費等
事　務　費	147,456	通信費、事務費等
事務局費	2,000	人件費、交通費
事業費	2,948,808	
卒業記念品代	199,020	校章入り印鑑
会報発行費	2,412,388	同窓会報編集・印刷・郵送費等
教育振興費	143,000	東海大会等出場選手激励金
諸　　費	194,400	ホームページ運営費
予備費	312,100	
予　備　費	312,100	マウンテンビュー懇親会、同窓会総会メダル代
合　計	4,715,054	
次年度繰越金	188,275	

●別途積立金会計

1.諸事業用予備費（磐田信用金庫）　1,159,189
2.終身会費等の積立金（磐田信用金庫）　3,653,736
3.名簿会計（郵貯銀行）　5,043,260
4.定期預金（磐田信用金庫）　10,000,000
5.定期預金（静岡銀行）　10,093,993
6.利付国債償還金・利息（静岡銀行）　25,723,591
7.磐田信用金庫への出資金　1,000,000

合　計　¥56,673,769